

(特非) 東京労働安全衛生センター

2つの大震災から学び来るべき都市型地震に備えるアスベスト対策の提言と普及活動

イベントの 延べ参加者数	236人
イベント参加者の 満足度	92%
活動の全体目標 に対する達成度	65%



武蔵大学の学生たちと調査前の打合せの様子

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 2年間で631ヶ所の解体現場調査を訪問し、解体中の現場195ヶ所のうち40件(20.5%)で、アスベスト含有建材の取り扱いに破砕などの問題がみられ、指摘によって飛散防止策がとられた。
- 工夫** パンフレット、建材サンプルなどの分かりやすいツールを活用して、見て、さわって、やってみる体験型で示す。

課 題

残されているアスベストについて、震災に備える対策と解体時の対策を住民、建物所有者、事業者、作業員、自治体とともに進めることによって、リスクを最少にすること。

活動内容

- 1)都市型震災に備えて：①建物のアスベスト含有建材使用状況調査、②アスベスト含有建材の計画的除去、③地域防災計画にアスベスト対策を取り入れること、④防じんマスクの備蓄とマスクフィット研修実施。
- 2)通常時のアスベスト対策として：

- ①改正大気汚染防止法の徹底と地方自治体の条例の制定促進、
- ②リスクコミュニケーションの促進、
- ③事業者と労働者へのアスベスト飛散、ばく露防止対策の教育研修活動の強化に取り組む。



解体現場終了後現場で発見されたスレート板

今後の課題

来年度は、これまでの活動を踏まえ、各地での住民参加によるワークショップ、キャンペーンを実施しながら、国、地方自治体などにアスベスト対策の強化を要請する。企画の宣伝と自治体等への働きかけを強化する。